

ハローキャリアワーク通信

令和8年4月吉日
教育総合センター
事業推進担当課

株式会社セックによる「宇宙で活躍するロボット大作戦」①

4月3日（金）用賀にあるITソフトウェアの会社である、株式会社セックにおいて「宇宙で必要になるロボットを考えよう！」の1日目の活動が行われました。

今回のワークには、小学校5年生から中学校2年生の当選者14名（応募総数：41名）が参加しました。

教育委員会の担当者からハローキャリアワークの説明と諸連絡のあと、株式会社セックの酒井光資さんから、会社の概要についてのお話がありました。今回は「宇宙ロボットの開発を通して、私たちの仕事を知ってもらいたい」とのことです。



オフィスツアーの最初は、社内のロボコンチーム「SETAGAYA Eclipse」の紹介と実演です。実際に大会に出場したロボットの演技を間近で見学することができました。ロボットのスイッチを入れた後は、自律走行しながら的に向かってディスクを発射する様子に、子どもたちはとても驚いていました。



次に下の階に降りて、たくさんの社員さんがパソコンに向かっておしごとをしているフロアにお邪魔して、「Int-Ball 2」（イントボール2）の説明を聞きました。このロボットは、国際宇宙ステーションで現在使われていて、宇宙飛行士の作業の様子を自動で撮影するのだそうです。小さな球体にたくさんの技術が詰まっています。子どもたちは説明を熱心に聞き、実際の映像に興味深く見入っていました。



最後は元の場所にもどり、酒井さんから宇宙天気予報のお話がありました。太陽活動の予報の運用支援をセックが担っています。太陽活動といっても今ひとつピンときませんが、地球の天気は雨が降ったら傘をさすのと同じように、宇宙で生活するようになったら、宇宙天気予報で太陽活動を気にしながら生活するかもしれないそうです。



休憩をはさんで、後半の活動はいよいよ今回のミッションです。酒井さんから「もし将来、宇宙で生活するようになったら、ロボットとの共同生活が当たり前になる。ロボットがどんな場面で活躍するか、想像してみよう。」との投げかけがありました。そして、Scratch（スクラッチ）を使ったmBot2（エムボット2）を操作する活動に入りました。ロボットは机の上で動かさないこと、あぶないと思ったら持ち上げること、プログラムはちゃんと止めることなどの注意事項を守りながら、子どもたちは2人組、3人組で作

業していきます。様々なブロックを組み合わせることで、ロボットにいろいろな動きを命令します。はじめのうちはなかなかうまくいかず苦労していたグループも、だんだんと慣れていき「できた！」と歓声が上がようになりました。酒井さんから出される演習問題は少しずつ難しくなっていく、子どもたちは協力しながら試行錯誤を繰り返していきます。そして光センサー、超音波センサー、RGBセンサーを使った複雑な動きも扱えるようになりました。「障害物の15cm手前で止まる」「赤い線で止まるなど」などをクリアするたびに「やったー」の声が出ました。



こうして今回は、プログラミングの様々な技を身につけることができました。この経験を生かして、次回は「月面基地の補給ミッション」「太陽光パネルのメンテナンス」「緊急避難ミッション」などに挑戦します。子どもたちがどんなアイデアを出して、それを実現していくか、とても楽しみです。

